
編集後記

ここ数年、自然の持つ恐さを思い知らされるような異常気象が続いています。

私たちが作り上げてきた環境が、何か自然の周期に大きな変動をもたらしているのではないかと心配になります。

さて、わが国の薬学は、来年の6年制への実施を目前に控え、大きな変革のまただ中にいます。薬科大学による差はあっても、薬学教育全体が大きく変わる事は疑う余地のないことであり、薬学が薬剤師の育成をどのように行っていくのか、その真価が問われる時代が始まります。

このような薬学教育変革の折、e-ラーニングは、どのような使命と役割を担っていくのでしょうか。

本号では「e-ラーニング」を特集し、薬学におけるその現状と動向さらには展望について、4名の先生方にご執筆をお願い致しました。

e-ラーニングは、さまざまな場でさまざまな目的を持って利用されています。

個々の学生のレベル・ニーズに合わせて知識と技術、問題解決能力・プロフェッショナリズムの教育に利用する大学、学生の基礎学力低下や薬剤師国家試験対策、さらには卒業・生涯教育に対応できるようなプログラムを提供する大学、また大学間の「遠隔授業システム」を取り入れ、学生の多様なニーズに添えるようなシステムを構築している大学、一方では薬剤師の新人教育から、各薬局での実地教育に至るまで細やかな教育カリキュラムを作成している企業など、いかに多様に活用されているかを知る度に驚かされます。

今後はe-ラーニングが、大学間の遠隔教育をも可能にし、拡大していくともいわれていますが、ますます利用者の個別的なニーズに沿ったコンテンツが準備され、学生にとっては、学習のモチベーションを高めるためのツールとして日常的に利用される事を、一教員として望んでいます。

(編集委員 宮本法子)